

豊かな幼児教育の実現に向けて ～子どもとの出会いから生まれる幸せな「時間」を大切に～

全日本私立幼稚園連合会会長 香 川 敬



新年にあたり、全ての子どもたちの健やかな成長と、全国・加盟園の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

昨年4月、子ども・子育て支援新制度がスタートしましたが、教育・保育に係る私たち私立幼稚園の使命は不変です。幼稚園や認定こども園はそれぞれの機能を生かし、多文化共生時代と言われる今日を生き抜く意志と能力を育み、持続可能な社会の実現を担う子どもを育てていくことが求められます。

○幼児教育振興法（仮称）の早期制定

誰もが良質な幼児教育を受けられること、良い先生に出会うこと、園庭を含め多様な環境の下で主体的に遊びを展開できることなどの要件を満たすべく幼児教育振興法（仮称）の早期制定が絶対条件です。世界が幼児教育を起点とした学校教育体系の充実を目指すとき、特に大切にしなければならないことは、全ての幼児教育機関の安定した運営、全ての子どもに対する無償で良質な幼児教育の保障、幼児教育に携わる教諭の処遇改善など、幼児教育の質の向上に安心して取り組める環境の整備が急務です。さらには、家庭や地域における幼児教育支援の充実を目指すことが肝要です。そのためにも、幼児教育振興法（仮称）の制定が喫緊の課題なのです。

○幼児教育の無償化

平成28年度の国の予算は、2020年度のプライマリー・バランスの黒字化に向けた「経済・財政再生計画」の集中改革期間（2016～2018年度）の初年度の予算であり、本格的な歳出改革に取り組むこととされ、例年になく極めて厳しい状況です。

ここ数年間の幼児教育無償化の関係予算は、政府及び文部科学省の全体予算から見ても例外的な伸びとなっています。こうした状況下で、今後も同様の

伸びを期待するのは困難ですが、幼児教育無償化の実現は、保護者の経済的不安解消による豊かな家庭環境づくり、少子化対策にもつながります。また、幼稚園教育の環境改善、教員研修の充実が図られ、幼稚園教育の質の更なる向上が期待できます。全日私幼連は幼児教育無償化の実現に向け今後も政府・関係省庁に積極的に要望活動を行っていきます。

○幼稚園教育要領の改訂

2018（平成30）年度以降に全面実施となる次期学習指導要領改訂に向け、中央教育審議会では本格的な審議が始まりました。内容も大幅改定になる見通しで、教育現場への負担増も懸念されるところです。全日私幼連は文部科学省の動向を注視するとともにカリキュラム・マネジメントの普及に努め、これを基に、適宜折衝していきたいと考えます。

○幼稚園の役割と幼稚園教育の3つのキーポイント

幼稚園は、子どもの一生の中で非常に重要な役割をもっています。幼稚園は、「人生修業の場」であり、「心のドラマが生まれる場」、そして「文化の発信地」です。子どもとの出会いから生まれる幸せな「時間」をいつくしみ、これらの役割を果たすために幼稚園教育のキーポイントを3つ提言します。

☆常に子どもが真ん中にいます

☆人としての学びを大切にします

☆計画的にチームワークで取り組みます

幼児教育道標としての役割を果たすべく作成した栞「22世紀の日本が輝き続けるために～幼児教育をもっと豊かに～」を手掛かりに園の指標を見定め、幼児教育に携わる全ての方々が『志』をもってお取り組みいただきますよう祈念しています。

（山口県防府市・鞠生幼稚園）

平成 27 年度上半期決算報告・監査報告など

全日私幼連の団体長会・理事会合同会議が12月1日（火）、東京・都道府県会館において開催され、団体長会45名（定足数47人）、理事会50名（定足数59人）が出席しました。

まず、行政報告として「幼児教育の振興」について、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長淵上孝様から「幼稚園就園奨励費補助金予算額の推移、私立幼稚園に係る保護者負担の仕組み、平成27年度予算における『0.5兆円程度』と『0.7兆円の範囲で実施する事項』の関係等」について報告がありました。続いて、「平成28年度概算要求」について、文部科学省私学部私学助成課長蝦名喜之様から「平成28年度概算要求のポイント、私立高等学校等経常費助成費補助金幼稚園分の概要」について報告がありました。

引き続き会議に移り、澤田豊副会長による開会の言葉の後、香川敬会長から挨拶がありました。議長に上田雅裕氏（富山）と西谷正文氏（島根）を選任、議事録署名人には小島宮子氏（千葉）と志内正一氏（徳島）が選任されました。

（1）平成27年度上半期決算・監査報告：田中辰実総務委員長より平成27年度上半期決算報告があり、田中邦昌監事より監査報告がありました。

（2）会務運営報告：各委員会委員長から、次のとおり会務報告がありました。総務委員会①JK保険募集結果について。政策委員会①平成28年度私立幼稚園関係予算についての要望、②1月28日開催の政策担当者会議について。教育研究委員会①園長・リーダー研修会について、②幼児教育の質の評価について。経営研究委員会①設置者・園長全国研修大会について、②学校法人会計基準の主な改正点について、③マイナンバーへの実務対応について。

広報委員会①現代の子どもの生活実態調査について、②第7回ようちえん絵本大賞について、③私幼時報3月号掲載予定の東日本大震災関連記事掲載について。102条園対策委員会①102条研究会議について、②今後の研修会開催予定について、③確定申告について。認定こども園委員会①設置者・園長全国研修大会について、②アンケート調査について。こどもがまんなかPROJECT①サポーター企業について、②こどもがまんなかコンサートについて、③シードペーパーについて。政令都市特別委員会（國府谷俊盛（名古屋市）委員長）①10月3日第1回委員会での委員長決定の結果報告、②2月7日第2回委員会開催について。

協議案件として田中総務委員長より、全日本私立幼稚園連合会会則施行細則〈会費の算出〉第11条の変更について提案があり、細則の変更を含め、1月29日開催の団体長会・理事会合同会議で審議することが了承されました。報告案件として、坪井政策委員長より「幼児教育振興法（仮称）」並びに「子ども・子育て支援新制度」について、資料に基づき報告がありました。

次に、（公財）全日私幼研究機構からの報告として、田中雅道理事長から「幼児教育アドバイザー（指導主事相当）の育成を（公財）全日私幼研究機構が担う予定である」との報告がありました。

その他として、田中総務委員長より、「平成28・29年度役員の選任について、会則第9条〈役員の選任〉、会則施行規則第4条〈会長及び副会長の選任〉についての確認がありました。

村山十五副会長の閉会の言葉で午後4時に終了しました。

（調査広報副委員長・波岡伸郎）

幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める 署名活動 全国報告会

幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める署名活動全国報告会が12月1日（火）、東京・都道府県会館会議室において開催されました。尾上正史全日私幼連副会長が司会を担当し、はじめに全日本私立幼稚園PTA連合会河村建夫会長より挨拶があり、続いて全日本私立幼稚園連合会香川敬会長が挨拶しました。

田中雅道全日私幼連副会長より「最善の教育環境提供のバックボーンとしての幼児教育振興法（仮称）の早期制定」のための署名活動全国報告会であるとの趣旨説明がありました。

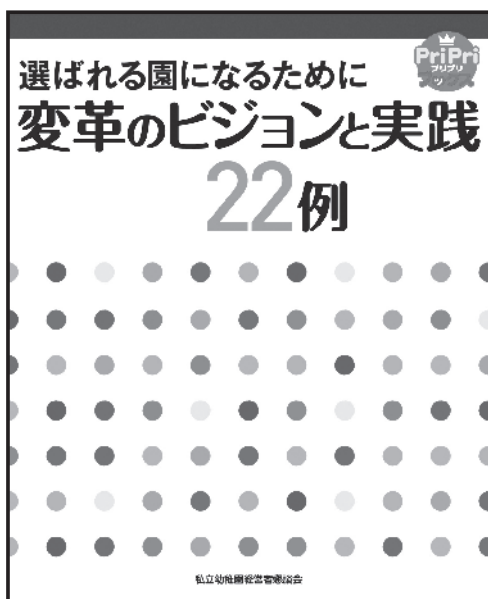
続いて、幼児教育議員連盟会長中曽根弘文参議院議員、前文部科学大臣・幼児教育議員連盟副会長下村博文衆議院議員、国土交通副大臣・全日本私立幼稚園PTA連合会副会長山本順三参議院議員、山谷えり子参議院議員、橋本聖子参議院議員、塩谷立衆議院議員よりご祝辞をいただきました。



続いて、河村会長から中曽根幼児教育議員連盟会長へ署名目録が手渡されました。

北條泰雅全日私幼連副会長の閉会の言葉で午後3時に閉会しました。

（調査広報副委員長・波岡伸郎）



こども園への移行？ 0・1・2歳児保育を導入？ 保育の質の向上は？

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に！

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著

248ページ／税込4,320円

世界文化社刊／4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部

TEL：03-3262-5128 FAX:03-3262-6121

幼稚園関係予算案の概要について

1. 幼児教育の無償化に向けた取組の段階的推進 345 億円

◆多子世帯の保護者負担の軽減について

- 年収約 360 万円程度までの世帯について、多子計算に係る年齢制限を撤廃し、第 2 子半額、第 3 子以降無償化を完全実施。

◆ひとり親世帯等の保護者負担の軽減

- 年収約 360 万円程度までの世帯のひとり親世帯等について、
 - ・市町村民税非課税世帯を無償。
 - ・年収約 270 ～ 360 万円程度の世帯の第 1 子を半額、第 2 子以降を無償。

本連合会が精力的に運動を展開してきた結果、平成 28 年度予算案については、就園奨励費関係予算は、22 億円増の 345 億円となり、更に幼児教育無償化が拡大することとなりました。増額の 22 億円の全てが、制度拡充による保護者の負担軽減分であり、平成 27 年度予算の制度拡充分が 15 億円増であったものを上回っています。

具体的には、現行の制度では、第 1 子の保育料に対し、第 2 子は半額、第 3 子以降は無償となる軽減措置が取られていますが、第 1 子、第 2 子といった子供の数え方の範囲については、小学校 3 年生が上限と設定されています。このため、世帯の中の一番上の子供が小学校 4 年生に進級すると、それまで保育料が半額や無償とされていた措置がなくなってしまう状況にあります。兄・姉の年齢に関わらず（年齢制限の廃止）、下のお子さんが安心して幼児教育を受けられる環境をつくるよう、平成 28 年度予算案においては、市町村民税所得割課税額が 77,100 円以下の世帯（年収 360 万円程度まで。以下「年収 360 万円以下世



季節を感じて
作って楽しむ！

ポット編集部 編
定価1,944円(税込)
26×21cm/96ページ
発行・発売 チャイルド本社

新刊

アイデアいっぱい！
**季節&行事の
製作あそび**

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい！
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

帯」を対象に、年齢制限を撤廃し、第2子半額、第3子以降は無償の措置を完全実施することとなりました。なお、これを超える年収の世帯については、これまで通り、小学校3年生という年齢制限はありますが、多子世帯への軽減は、引き続き措置されます。

さらに、ひとり親世帯の優遇措置として、市町村民税非課税（年収270万円程度まで）の世帯は第1子から無償、年収360万円以下世帯は、第1子から半額以下に、第2子から無償とすることになりました。

2. 幼児教育の質の向上 3億円

◆幼児教育の質向上推進プラン＜2.2億円＞

①幼児教育の推進体制構築事業【新規】

地域の幼児教育の質の向上を図るため、地域の幼児教育の拠点となる幼児教育センターの設置や、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して指導助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置など、自治体における幼児教育の推進体制の検討・整備を行う。

②幼児期の教育内容等深化・充実調査研究【新規】

幼児教育に係る教職員の研修等をはじめとした資質向上、幼児教育にふさわしい評価の在り方の検討等に関する調査研究を実施する。

◆幼稚園教育要領の改訂＜0.1億円【新規】＞

中央教育審議会における審議を踏まえ、幼稚園教育要領の改訂や解説書の作成等を実施。

◆ECEC Network 事業の参画＜0.4億円【新規】＞

OECDにおいて計画されている①幼児教育・保育の従事者に関する調査、②幼保小接続に関する調査、③幼児教育・保育の学習効果に関する調査に参加し、幼児教育の質の向上を図るための政策立案に資するデータを収集する。

幼児教育の質の向上の関連予算としては、特に、「幼児教育の推進体制構築事業」を2億円規模で新規に

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化!

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。



**ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

立ち上げることになりました。これは、私立幼稚園を含め、幼稚園、保育所、認定こども園の各園の研修等が充実し質の向上に向けた人材育成が図られるよう、都道府県レベルでの研修や相談等の拠点となる「幼児教育センター」の整備や、市町村レベルで各園を巡回して助言を行う「幼児教育アドバイザー」を配置する取組を、モデル事業として全国各地で行うものです。私立幼稚園としては、本事業による地方公共団体の支援が活用できるだけでなく、これまで私立幼稚園が培ってきた幼児教育の知見を活用して、公立園や保育所、認定こども園の実践にも役立てられるよう、求めていくことが考えられます。

また、国において、国立教育政策研究所に、国の幼児教育政策の企画立案を支える調査研究拠点（ナショナルセンター）を整備することも盛り込まれました。

全日私幼連が成立を求めて運動を行っております幼児教育振興法は、国家戦略としての幼児教育振興の理念を定めることとなりますが、この幼児教育振興法と国の研究拠点の整備、地方公共団体の各園への支援体制の構築という3つの施策がセットとなって、幼児教育の振興が強力に推進されることが期待されます。

3. 幼児教育の環境整備の充実 56 億円

※ 平成 28 年度安心こども基金約 100 億円

※ 平成 27 年度補正予算案 5 億円

◆認定こども園等への財政支援＜5.1 億円＞

認定こども園の設置・促進を図るため、認定こども園の新設・園舎の耐震化等に必要な施設整備費を支援するとともに、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有促進や、研修等の実施費用を支援する。

※ 認定こども園の整備を図ることを目的とし平成 20 年度から都道府県に造成している安心こども基金について、終期を平成 28 年度末まで延長し、同基金と一体となって認定こども園の施設整備を図る（平成 28 年度安心こども基金約 100 億円）。

◆私立幼稚園の施設整備の充実＜5 億円＞ ※ 別途 27 年度補正予算案にて 5 億円

緊急の課題となっている耐震化に取り組むとともに、学校法人立幼稚園等の施設のアスベスト対策等に要する経費の一部を補助することにより幼稚園の環境整備を図る。



**バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！**

くるんとバス

—通園バス位置情報システム—

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットの GPS 機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。



いつもNAVI
「いつも NAVI」動態管理サービス for 送迎バス（くるんとバス）は、株式会社ゼンリンデータコムの登録商標です。



株式会社 **チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

幼児教育の環境整備の関連予算としては、認定こども園の設置に伴う施設整備等の予算が、27年度と同様に計上されています。この計上額とは別途、都道府県に造成されている安心こども基金の残額およそ100億円について、当初、平成27年度末までの期限が設けられていましたが、平成28年度末まで延長することも決定されました。これにより、実質的な施設整備等に必要な予算は確保されています。

また、緊急の課題となっている耐震化等のための私立幼稚園の施設整備費については、平成28年度予算案として5億円が計上されたほか、先週18日に閣議決定された平成27年度補正予算案においても5億円が計上されており、あわせて10億円の予算が計上されています。

4. 私立高等学校等経常費助成費補助金（幼稚園分）295億4,900万円

◆一般補助＜193億5,700万円＞

○園児1人当たり単価：23,444円

◆特別補助＜101億9,200万円＞

○幼稚園等特別支援教育経費＜56億8,100万円＞

○預かり保育推進事業＜34億5,100万円＞

○幼稚園の子育て支援活動の推進＜10億6,000万円＞

平成28年度予算については、加盟園のご支援・ご協力をいただきながら強力かつ懸命に折衝活動を続けた結果、厳しい財政状況にもかかわらず、このような幼稚園関係予算を獲得することができました。

L25200

子育て・保育
セミナー

**子どもの遊びの世界を
知り、学び、考える！**

著／小田 豊

B6上製判 定価：本体 **1,200**円(税別)

- ・少子化と幼児期の学びについてわかる第1章
- ・子どものことをもっとわかろうという第2章
- ・子どものよさをどう見ればよいかわかる第3章

これらを「子育て・保育セミナー」として、すべての大人へ！

L66700

保育・子育てQ&A

監修／塩 美佐枝・秋山 仁・小野和哉
編／田邊光子 著／全国幼児教育研究協会

B6上製判 定価：本体 **1,200**円(税別)

全国から寄せられた子育てについての保護者の悩みに、幼稚園の先生方がやさしくアドバイス。保護者と保育者がいっしょに考え、保育・子育てを楽しめるようにしていく本です。

ひかりのくに株式会社

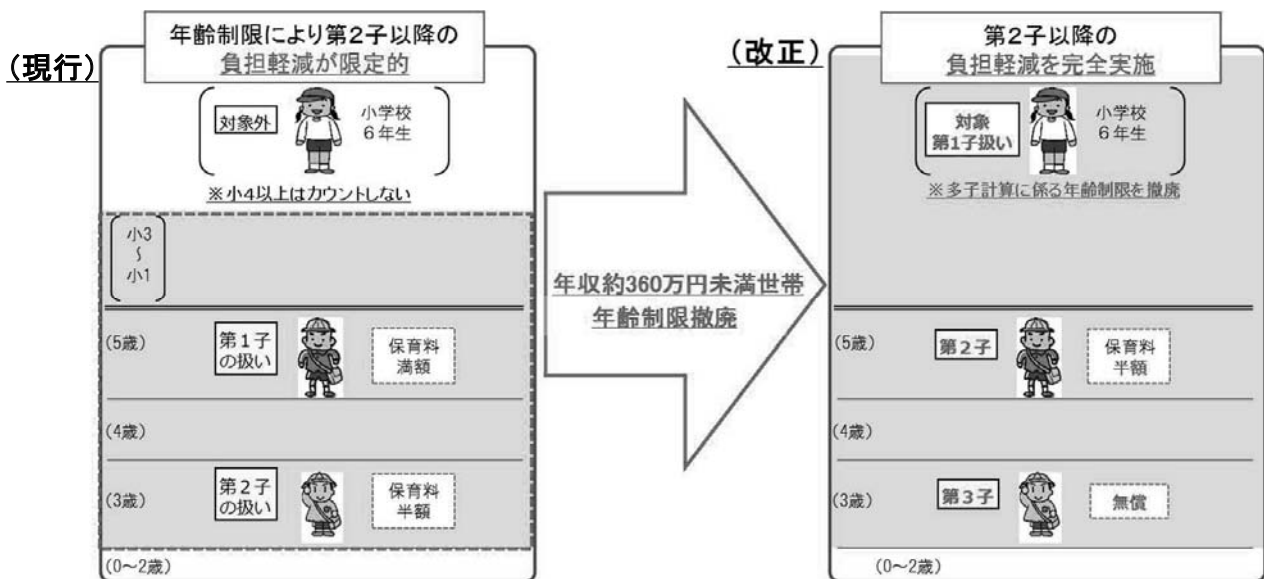
本社／〒543-0001 大阪市天王寺区北本町3-2-14 TEL.06-6768-1151(代表)
支社／〒175-0082 東京都板橋区高島平6-4-1 TEL.03-3979-3111(代表)

幼児教育の無償化に向けた取組について

「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議」（平成27年7月22日開催）で取りまとめられた方針等を踏まえ、低所得の多子世帯及びひとり親世帯等の保護者負担の軽減を図り、幼児教育無償化に向けた取組を推進する。

①多子世帯の保護者負担軽減 18億円（文部科学省計上分 14億円）

年収約360万円までの世帯について、現行では小学校3年生までとされている多子計算に係る年齢制限を撤廃し、第2子の保育料を半額、第3子以降の保育料の無償化を完全実施。



※第1子、第2子といった多子計算については小学生3年生を上限とし、小学生4年生以上はその計算の対象外。兄弟が小学校4年生以上に進級すると第2子扱いが第1子扱いとなるなど負担軽減が限定的。

②ひとり親世帯等の保護者負担軽減 4億円（文部科学省計上分 3億円）

市町村民税非課税世帯は保育料を無償化し、年収約270万円から約360万円までの世帯は第1子の保育料を半額、第2子以降の保育料を無償化する。

階層区分	現行		改正	
	基準額 保護者負担額(月額)		優遇措置 保護者負担額(月額)	
第Ⅱ階層 市町村民税非課税世帯、 市町村民税所得割非課税世帯 (年収約270万円まで)	第1子	3,000円	0円(無償化)	
	第2子	1,500円	0円(無償化)	
第Ⅲ階層 市町村民税所得割課税世帯 77,100円以下。 年収約360万円まで)	第1子	16,100円	7,550円(基準額から1,000円引き下げ、半額)	
	第2子	8,050円	0円(無償化)	

追加所要額合計: 22億円

日本私立学校振興・共済事業団からのお知らせ

表紙写真・園紹介記事を募集しています



表 紙 写 真

春季は入園式、遠足、夏季はプール開き、お祭りなど、四季折々の季節感ある学園風景の写真を募集しています。

連載「魅力あふれる学校づくりを目指して」

幼稚園での施設整備に関すること、園児の体力づくりや情操を育む日々の取り組みなど、様々な事例を紹介してみませんか。



過 去 の 掲 載 例

【表紙】

◆平成 27 年 10 月号(VOL.214)／鮎澤学園

【表紙および記事】

◆平成 27 年 11 月号(VOL.215)／東京内野学園

豊かな自然を活かした園作り

◆平成 27 年 12 月号(VOL.216)／ひまわり学園

明るく元気に伸び伸びと生活する園舎・園庭を目指して

〒102-8145 東京都千代田区富士見 1-10-12

企画室 ☎ 03 (3230) 7809～7811 ✉ kikaku@shigaku.go.jp

「しーちゃんと学君のちょっと学校訪問」

特色のある園づくりの様子や、園児が生き生きと学んでいる様子取材させてください。

園の伝統行事や音楽・スポーツ活動、地域活動への参加など、「レター」で紹介してみませんか。事業団職員が取材にお伺いします。

過 去 の 掲 載 例

◆平成 25 年 3 月号(VOL.90)

豊かな感性を育てる裏山探検(見真幼稚園)

◆平成 26 年 3 月号(VOL.96)

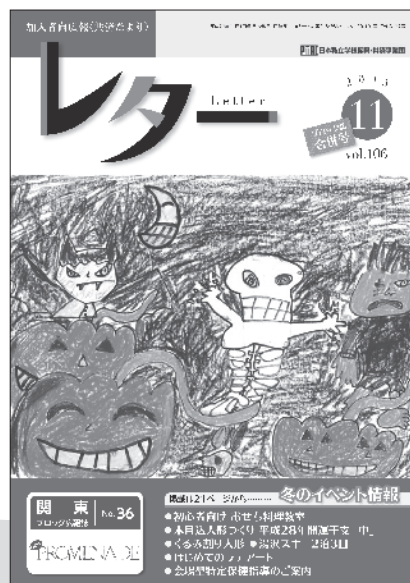
伝統文化から学ぶ「茶道」(北陽幼稚園)

◆平成 26 年 7 月号(VOL.98)

「ありがとう」の心を伝えるカレーパーティー(東松幼稚園)

◆平成 27 年 11 月号(VOL.106)

たくさんの愛に包まれたクリスマスページェント(武庫川幼稚園)



〒113-8441 東京都文京区湯島 1-7-5

広報相談センター 広報班 ☎ 03 (3813) 5321 (代表)

* 今月号から、「第6回幼児教育実践学会」で行われた口頭発表・ポスター発表の概要を順次掲載いたします。本誌への掲載は、本財団の研究研修委員会にて選定した発表概要を掲載しております。

布おむつが子どもの排泄自立にどう影響するのか

発表者：あけぼのっこ保育園

影山 佳代 小寺山 里美 小澤 靖子

「紙おむつを見直すきっかけ」

- ・「幼稚園児と保育園児の排泄自立の差は何が原因なのか?」「おむつはずれが遅くなっているのは何の関係しているのか?」といった疑問を持っていた中「紙おむつは石油由来の物質で作られている」という事を聞き、子ども目線から見た「紙おむつとは」を考えた。

・紙おむつは子どもにとって本当に「快適」なのか

・自我が芽生えている子どもが紙おむつをつけていることは子どもにとって「良い事」なのか

・「いつかおむつが取れたらいい」といった排泄への関心の薄さが子どもに「影響」していないのか?

上記の3点から食べること・寝ることと同じくらい排泄も大切な事と認識し、排泄について研究した。

「2歳児の環境などによつての排泄自立の差」

まずは、自園の幼稚園2歳児、保育園2歳児のデーターをとる事で、紙おむつは排泄自立に影響しているのか?等を調べた。

下記のデーターは、各年度の4月の状況を図に表した。

●家庭保育で育った

2歳児の排泄自立の状況

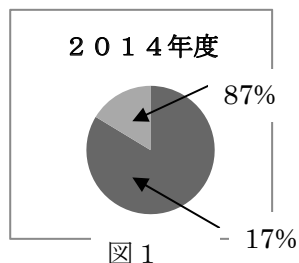


図1

●保育園で過ごしている

2歳児の排泄自立の状況

・前年度紙おむつ使用

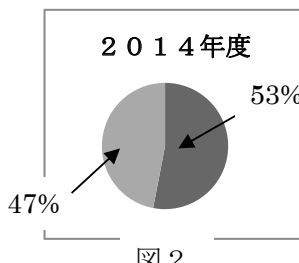


図2

・前年度布おむつ使用

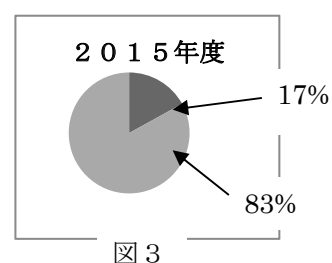


図3

青：おむつ使用 赤：おむつなし

図1：2014年度も2015年度も排泄自立の状況が変わらない。（2015年度のデーターは省略）

図2：月齢の高い子が排泄自立をしている。

図3：進級児は全員排泄自立をしている。

☆家庭保育と保育園との排泄自立の差、布と紙との排泄自立の差が見られたが布といった素材がすべて自立へと繋がっているとは考えられないという思いが生まれた。

「布おむつを取り組む中で見えてきたこと」

- ・布おむつが排泄自立を促しているように見えるが、実際の保育を見てみると紙と布の交換回数の違い・おむつ換え時の関わりが影響しているのではないか?という疑問が生まれた。
- ・保育時間8時間の子どもの1日の交換回数を比較すると：紙→5～6回 布：→10～12回
2倍の差が生まれていた。紙であってもまめに交換していると思っていた職員にとって衝撃だった。
また、おむつ換えの時間も紙と布では差が出た。

「保育中、布おむつを取り組む中で・・・」

- ・午睡中に排尿し、冷たくて起きる姿がある→数ヶ月すると午睡中の排尿が減った。
- ・園外で排尿した時に交換する場所がない（1歳児）→10月頃にはおむつがはずれ、トイレで排尿出来るようになった。月齢にもよるが排泄自立の時期と歩行の安定の時期が重なることで園外でのおむつ交換の悩みはなくなるため、子どもの生活の合わせた保育の取り組みの大切さを実感した。

☆布おむつを取り入れるにあたり・・・

「職員の意識統一」

- ・紙パンツと違い布おむつにはパンツ式が無い為、寝ころんでの交換を嫌がる時期の子どもとしっかり向き合い接することを心掛ける事で交換を嫌がる様子が日を迫うことに無くなってきた。
→子どもにとって布は肌触りと共に自分だけの関わりの時間がある心地良いものとなっている。
- 布おむつの取り組みスタート時は、おむつ換えの時間に追われる事を懸念していた保育者だったが子ども達の排泄交換に意欲的な姿や、安定して生活する姿を見て、布おむつの良さを実感した。
- ・職員の連携をより密にする事で、職員全員が一人一人の排泄間隔を把握し促せるよう表にした。

(図1参照)

「保護者への意識統一とその後の声」

- ・取り入れるに当たっては2年掛けて保護者に説明を行った。
- ・保護者にも布おむつの交換をお願いする事がある為、付け方のレクチャーを行った。

☆取り組んで1年後

→預ける前、お迎え後に保護者が家のおむつに交換する時間を持つことで安定した関わりを実感

→家で紙おむつを嫌がるようになった等ほとんどが布おむつに対して好意的な意見が多かった

☆排泄にあまり関心がなかった保護者も、布おむつの使用を通して関心を持つようになった。よって、子どもの排泄自立にも繋がっていった。



図1

「布おむつの取り組みを通して見えてきたこと」

- ・排泄自立は、紙・布といった素材だけが関係しているとはいえない。
- ・自我の芽生えと排泄自立時期は大きく関わっている事が見えてきた。
- ・布おむつを使用することで子どもの安定が優先された。そこから愛着関係へと繋がった。

「結論」

- ・自我の芽生えと排泄自立時期が同時期になることで自己有能感の醸成と考えるが、この時期にただおむつをはずすだけでは自己有能感には繋がらない。初めは、布おむつの交換に負われていた職員だったが、そこから一人一人の子どもと向き合う大切さに気づいたことで強固なる愛着関係が担当職員と子どもの間に生まれた。よって布おむつは、交換を通して人間関係で大切な事をこの時期に育てる1つの手段であるのだと思った。

保護者と共に創る防災意識と子どもの未来

ー保護者・地域と繋がるウォークラリーの取り組みー

キーワード：防災意識・保護者との連携・地域

○田崎和歌子（ほうとく幼稚園 教諭）

大澤 力（東京家政大学 教授）

はじめに

東日本大震災では、地震・津波に対する防災教育の必要性・重要性が改めて認識された。持続性を持った防災教育・普及啓発のあり方や地域の特性を把握した上で迅速かつ適切な対応ができる社会の構築が求められている。東日本大震災をきっかけに、本園では幼稚園はどのような取り組みを始める事が出来るのかを模索してきた。震災を体験し、保護者・地域との協力体制や関係性の構築の見直しを図るために、本園ではPTA主催の行事の変革を試みるに至った。ここでは、2011年から2014年の4年間の取組について、特に、地域性の把握・子どもの未来を築く為の保護者の防災意識の向上にむけたウォークラリーの取組について発表したい。

1. ほうとく幼稚園PTAにおける「防災意識」の捉え方

防災対策推進検討会議 津波避難対策検討ワーキンググループの第7回会合においても興味深い見解が示されている。特に、地震・津波は自然現象であり、想定を超える可能性があることを十分に認識すべきであり、地震・津波の科学的理解を深め、住民等の防災意識の向上に努める必要性を大きな課題として取り上げている。

- ・東日本大震災では、地震・津波に対する防災教育の必要性・重要性が改めて認識された
- ・継続的かつ定期的に具体的・実践的な訓練を実施するなどの工夫を行うべき
- ・迅速かつ確実な避難行動を行える防災文化の醸成
- ・地域特性を把握した上で迅速かつ適切な対応ができる社会の構築
- ・持続性を持った防災教育・普及啓発のあり方
- ・実践的な防災訓練のあり方

その他、「災害対策基本法の一部を改正する法律案」（平成24年5月18日閣議決定）には、教訓伝承、防災教育の強化や多様な主体の参画による地域の防災力の向上等が盛り込まれた。

出典：「災害対策基本法の一部を改正する法律案」について（平成23年5月18日）／内閣府

そこで、本園PTAにおける防災意識のポイントを以下とした。

①教訓・課題を防災教育等を通じて後世にしっかり

伝承していく努力

- ②災害対策に当たっては、「直ちに逃げること」を重視し、ハード・ソフトの様々な対策により被害を最小化する「減災」に向け努力する
- ③幼児期の特性を踏まえ、親子で学び合い、助け合い、保護者間・幼稚園・地域と関係性を深める防災への取り組みを検討し実践する

2. ウォークラリーの取り組みの背景

(1) PTAわかば会について

わかば会とは、ほうとく幼稚園に在籍する保護者と勤務する職員並びに幼稚園の経営に協力する者をもって組織する。この会は、次のことを行う。

1. 園児の保護者と幼稚園の連携
2. 幼稚園運営上の援助
3. 園児の保健管理と健康増進
4. 幼稚園の教育的環境と充実整備
5. 園児の教育についての研究と懇談
6. その他園児保育に必要な事項

ほうとく幼稚園わかば会会則より抜粋

(2) PTAわかば会主催行事の見直し

震災を機に、PTAの在り方についての根本的な考え方を見直すこととなった。見直しにあたり、着目されたことは、保護者としてどのように参画していくかその参画の在り方の問いなおしが深まった事、その基盤に、子どもの存在をどのようにとらえるかという視点が重要視されたことである。

子どもを人間として、しっかりとみていく大人の眼差しや関わり、そのために、保護者主催の行事を単なるイベントに終わらせるのではなく、保育の一貫として子どもの育ちを園と保護者、地域で共有していける関係づくりを根幹に据えることが求められた。（図1「わかば祭への思い」図2「わかば祭構造図」参照）

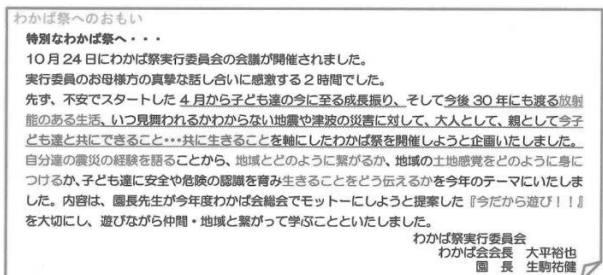
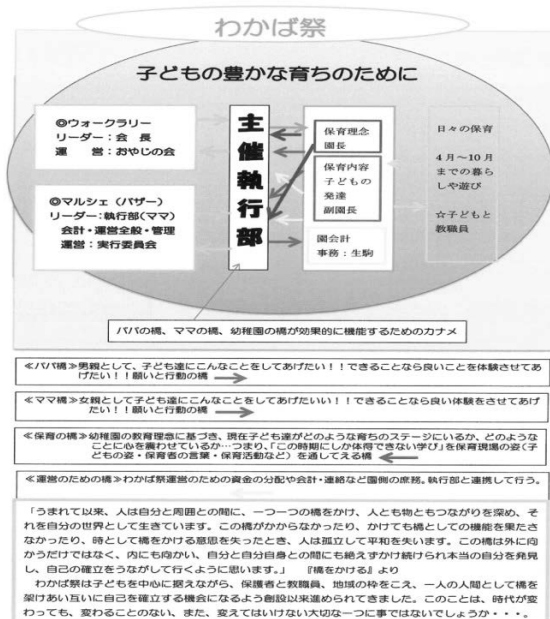


図1「わかば祭への思い」

2014 わかば祭便りから抜粋



3. 保護者・幼稚園・地域の関係性の変化とウォークラリーの進化

表1 進化していくウォークラリー

子どものあいのまの姿から、進化していく ウォークラリー				
	2011…震災から 8ヶ月	2012…震災から 1年8ヶ月	2013…震災から 2年8ヶ月	2014…震災から 3年8ヶ月
テーマ	『温故知新～歩いて～食べて～知って～』 震災を体験した市民として・大人としてできることを子どもと共に！	『未来に広がる地域のわがこ～わ～和～輪～』 震災後の復興と今必要なことを子どもに伝えよう！街の変化と共に語る・共に歩く・共に感じる	『いま @ マルシェ』 震災から今後を見つめて、子どもの視線で未来を考える！	『探 険 ～未来地図を描こう～』 親も子も、仲間と共に自分の街を愛感じ、子どもの視線で未来を考える
コンセプト	ウォークラリーを初めて実施。自分達の震災の経験語ることから、地域とどのように繋がるか、地域の土地感覚をどのように身に付けるか、子ども達に安全や危険の認識を育み生きることとどう伝えるかをメインに、被災地の中で、被災地をみんなで歩くことから…	2011年のコースと同じコースでウォークラリーを実施。街並みの変化、必要な危機管理の再確認、地域との交流を深める。街の復興の跡にある、それぞれの「物語」「愛おしさ」や「悲しさ」「人間のがんばり」を語り合いながら歩くことを大切に…	「子ども視線」でスローガンに、ウォークラリーを実施。運動会での大人も子どもも心から一体感を共有したあのグループの仲間と互いに力を合わせ、新しい、真の良さを発見することと大切に。街の自慢探し！	運動会での子どもの「あそび（まなび）」から、触発されて、大人が本気になって遊ぶ企画を立てました！「自分の枠を超えて 挑戦する」友達や仲間と「越えられたい」「越えよう」と試みる楽しさ」が遊びにはあることを子どもから学びました。大好きな街で「たからもの」探しをして遊ぶことをメインにしました。
あそび	「ウォーキングガールズツアー」 幼稚園をスタートし、グルメマップのツアーにレジャーツー！マップに沿って歩いていくと、榎田町のおいしいコースが食べられます。地域のお店に協力を頂き、街の中を周ると、食楽酒（ジュース）メインのお肉料理・スープ・パン・デザートのコース料理が味わえます！この街には、心をこめて、美味しい物を作ってくれる職人さんがたくさんいるのです！！	「ウォーキングガールズツアー」 グルメマップのツアー第2段！マップに沿って歩いていくと、榎田町のおいしいコースが食べられます。地域のお店に協力を頂き、街の中を一周！今年は、協力して下さるお店も増えました！「街の中で、子どもが遊ぶ声が聞こえて安心した」と昨年のまちの声に感謝しながら、今年も元気に人の輪・心の和を広げました。	「ウォーキングガールズツアー」 幼稚園をスタートし、グルメマップを手始めに、町のアートを探してウォーキングによう！街の中にある、様々な「かお」を写真に捉えて、グループごとに作品をつくりあげる。一人ではできないことも、みんなの発見や視点、ことと、子どもと一緒に歩いてみると、普段は感じられなかったことを感じたり、懐かしい感覚が蘇ってきます。きつと…もしかしら…人間らしい感覚…	「探検ウォークラリー」 探検地図の中に描かれた、マークや記号をさがり、榎田町を探検しよう！ わくわく、どきどきした心もちで、町を歩くこと、自分の足で歩くことで、今までと違った、新しい発見や不思議を見つけることがきっと出来ると思います。「今をしっかりと歩くこと…その体験が未来を描くこと」につながることを願って今年のわかば祭を開催致します。

4. まとめにあたり、防災意識をはぐくむことは…

(1) 防災意識を育むとは・・・

地域に根ざした防災意識を育むことは、長い時間を要するが、始めの一步を踏み出すことが大切だと考える。各地域における災害リスクの考え方や各災害に対する防災教育、防災啓発で最低限伝えるべき内容や手順を保護者・地域で検討していくことも、

具体的には必要だが、幼稚園としてもっとも、大切なことは、地域性（地理的なことを超えて、地域への親しみや信頼、安心）を子ども・大人が実感として持てることを育むことではないか。

保護者が、地域に根ざした人材として育つこと、防災関係機関・協力体制の構築のために、消防署や警察、学校など公共の施設の位置・距離感・環境・人財を感じるなど、具体的にできることを地道にしていくことが重要と思われる。そのきっかけとして、園のPTAが地域をフィールドとしたウォークラリーを防災と結び付け実施することは意義深いと考える。

地域の一員として、幼稚園と幼稚園の保護者だからできることはなにか？

①子どもってすごい！・・・子どもが地域にいることの素敵さを発信する

保護者・保育者・地域の大人が子どもの素晴らしさをわかちあい、子どもに抱く自然な感情を取り戻していく・・・

保育の幸せ・子どもと暮らす幸せを広げる行事や関わりの機会作り

②子どもの暮らし(保育)の探究

保育者の専門性を高め、園内の保育の充実を図ると共に、地域社会に存在する時間の保証す保護者・地域の人々と共に、子どもの暮らしを構築していく意識をもつ。

③園の文化力up

子どもを中心に、園の生活や遊びの中に浮かび出てくる子どもの育ちや文化を保護者に発信し、伝え合う機会を持ち、子どもの遊びの重要性を理解するために、保護者・地域の人々が子どもと遊ぶことを体験し、楽しみや充実感、その中から得られる学びの重要背を感じる機会を創る。

子どもを真ん中に…子どもから生まれるあそびを大切にを進めていく防災意識

子どもが、園で行うオリエンテーリング（5月）から親子で行うオリエンテーリング（6月）、そして、地域の人々と触れ合うオリエンテーリング（11月）の内容は、その時の子どもの発達やあそびに沿ったことを織り込みながら活動として展開している。だからこそ、子どもが夢中になりその姿を見る大人もいつしか夢中になれるのではないだろうか。夢中になっている姿は地域のひとと笑顔にし、繋がりを構築していく窓を開けることになるとになり、ひいては、地域特性を把握した上で迅速かつ適切な対応ができる社会の構築、持続性を持った防災教育・普及啓発のあり方につながるのではないだろうか。

大人の醸し出すおおらかさや優しさ、温かさ、ユーモアや創造性を生かしながら協力し、今後も活動を深めていきたい。

*掲載内容につきましては、発表者よりご提供いただいたデータをそのまま転載しております。

平成28年度のお申込みがはじまります

「私幼時報」を毎月手に取っていただいております先生方には、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の諸事業に対し、平素より格別のご理解を賜り感謝申し上げます。

本財団に設置されている調査広報委員会発行のPTAしんぶんは「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」として大切な機関紙と位置づけ企画・編集作業を行っています。

今年度の4月号は「幼稚園は子どもがはじめて出会う学校です」をテーマに全保護者の皆様へお届けしましたが、これに対する反響は大きく、「幼稚園でこのような新聞があることを知らなかった」等、はがきによる保護者の皆様からの声を沢山お寄せいただきました。

「PTAしんぶん」は、(公財)全日私幼研究機構の賛助会員になっていただき、会員に対する機関紙という形で配布しております。園単位でのお申し込みとなり、年間会費250円で11回新聞が配布されます。

現在PTAしんぶんを採用いただいております園数は、全加盟園の23%です。このPTAしんぶんを来年度も継続して発行するのに伴い、継続の園はもちろん、新規のお申し込みも大歓迎です。ぜひ賛助会員としてのご入会をお願いいたします。

なお、PTAしんぶんを希望される園は、各都道府県私立幼稚園団体経由でのお申し込みになります。詳しくは、各園にお送りする案内をご覧ください。

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 調査広報委員会



理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする 保育ナビ

月刊保育雑誌

定価: 本体価格926円+税
B5判 72ページ

2月号の主な内容

特集 自分も。園も。輝くために

—リーダーの自己啓発が園を変える!?—

- 園の未来が見えてくる 保育の夜明け2015
新制度で時代を変える
- 新人・中堅を育てる 組織をつくるための12のポイント
保育者集団を育てる園長のリーダーシップ
- スピーチ実践術! Part2
ひなまつり ほか

・人材育成の連載が充実!
・特集記事、連載記事の連動企画が
Webで読めます!
「保育ナビ」で検索!

※表紙・内容は変更場合があります。



2015年度の表紙写真は倉橋想三の言葉に合わせて
選んでいます。ぜひ本誌をご覧ください。

ISBN978-4-577-81384-3 762

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで
03-5395-6608 保育営業部

本社: 〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 http://www.froebel-kan.co.jp

キンダーブックの
フレーベル館

学校訪問型就職説明会の開催

全千葉県私立幼稚園連合会では、良き人材の確保のための活動として、毎年8月に就職説明会を開催しています。就職説明会は、幼稚園教諭を目指す学生に、私立幼稚園の素晴らしさと幼稚園教諭という仕事の素晴らしさを伝え、就職意欲を高めることや、就職希望者に千葉県の私立幼稚園をアピールすることを目的としています。今年度は、この就職説明会以降の教職員採用の強化を図るため、新規事業として「学校訪問型就職説明会」を県内4つの教員養成校で開催致しました（9月～10月）。これは、各幼稚園が養成校を訪問して個別ブースを開き説明を行うという形式です。

開催に向けては、学校側の要望を聞きながらの内容調整となりました。初年度でしたが学生の反応も良く各会場とも盛況に行うことができました。

初めに卒業生による体験談のお話を設定した学校もありました。全体会で自分たちの年齢に近い現場の先生のお話を聞き、その後、各ブースでの説明を聞くという流れは、幼稚園教諭への理解をより深められる機会になったようです。幼稚園としては、学生の考え方やその動向を理解することによって、採用活動をより効果的に進めていくこと、また、新人の育成や教職員の待遇面など自園を見つめ直すよい機会にもなりました。

事業の継続に向けては、検討が必要な部分は多々ありますが、まずは、幼稚園が学校に入って説明会を開くという機会を持てたことが大きな一歩であったと考えます。今後も、幼稚園の求人と学生をつなぐ架け橋となるよう事業を展開してまいります。（（一社）全千葉県私立幼稚園連合会経営研究委員長、旭市・あさひこひつじ幼稚園／鈴木教義）

保育者養成校との意見交換会

長崎県私立幼稚園連合会では、毎年一回、県内の保育者養成校と、当会役員との意見交換会を行い、今年2月の開催で第4回目を数えます。最初は養成校の先生方の顔と名前が分からない状況からスタートしましたが、今では何か相談事があると学校に連絡をして気軽にお話ができるほどに関係も深まりました。会議では、教育実習のあり方や学生の就職状況、採用後の新規採用者の勤務状況、園が求める保育者像など、双方からテーマを出し合ってそれぞれが持つ課題について理解を深めているところです。

昨今、全国的に教職員の確保が難しくなっている中で、地方から都市部へ就職先を求める動きも増えてきています。長崎県でも教職員確保については年々厳しくなっている状況です。そこで今年度は、養成校にご協力いただき、学生が就職についてどのような考えを持っているのかを次の4つの項目でアンケート調査を実施しました。

『希望する就職先と選んだ理由について』（幼稚園・保育園・認定こども園・一般企業などの中から選択）『就職先を選ぶときに重要視することについて』（教育保育内容・給与額・通勤距離手段・福利厚生・勤務時間などの中から選択）『就職先を探すときの検討範囲について』（実家から通勤できる範囲のみ検討 or 実家から通勤できない範囲も検討＜県内のみ・県外も可＞から選択）『子ども子育て支援新制度について疑問に思うこと』（フリー記述）現在、2月の意見交換会に向けて集計作業をしている段階です。

今後、ますます人材確保が厳しくなっていく中で、養成校とも連携し、保育者を確保・育成していくことが重要になってくることを感じています。（長崎県私立幼稚園連合会総務委員長、長崎市・幼保連携型認定こども園ひかり幼稚園／大谷英也）

まさかのときの“JK保険”

全日本私立幼稚園 連合会の保険

JK保険は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟園のために開発した制度です。団体契約となっておりますので、団体割引・優良割引が適用されており、個々にご加入される場合より割安となっております。本年も4月1日に向けて募集が開始されておりますので加入のご検討をお願い申し上げます。

本保険制度に関するご案内は全日本私立幼稚園連合会HP (<https://youchien.com>) と私幼時報3月号に掲載いたしますのでご覧ください。

編集後記

8カ月ぶりに、私の市の平成27年度1回目の「子ども・子育て会議」が開催されました。内容は、来年度から「こども園」に移行する園の利用定員等の確認でした。新制度施行初年度ですので、制度の適切な運用が注目されるのは当然ですが、依然として、保育の質の向上、職員の資質向上、研修の在り方についての話題が全く出てきません。これで本当の意味での「子どもたちの最善の利益」に繋がるのでしょうか。私の園では、11月から2月にかけてクラス単位で発表会を開催します。練習してきたことを、当日、いかに忠実にステージで再現するかということではなく、遊びからつながる発表会として、ストーリー、配役、大道具、小道具、台詞などなど、友だちと話し合いながら自分たちで作り上げた劇遊びを楽しんでいます。こんな時間をこれからも大切にできる制度へと成熟していくことを期待しています。

(調査広報副委員長・波岡伸郎)

平成27年度(第12回) 免許状更新講習の認定一覧

●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に係る事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
宮城県仙台市	宮本美和子先生の講義から園の課題に基づいて行われる園内研修や話し合いの場で、共通理解を図りながらどのように課題を解決していくか事例を通して考える。また、柴崎正行先生の講義から保育者の同僚性と保育者としての専門性について学ぶ。村山十五先生の講義では、認定こども園での子どもの生活を通して、子ども子育て新制度についての問題点を探り、その解決策を考える。	宮本 美和子(聖和学園短期大学非常勤講師)、柴崎 正行(大妻女子大学家政学部児童学科教授)、村山 十五((一社)宮城県私立幼稚園連合会理事長)	6時間	平成28年3月23日	80人	平27-81340-57843号



優れた芸術家の作品を、
子どもたちの生活環境へ。
見て、触れて、感じながら、
子どもたちの心は、
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp